

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

論述形式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

大問4題 各問200字程度(総字数800字程度)

出題の特徴や昨年との変更点

時代では、例年は古代・中世・近世・近代から1題ずつ出題されるが、本年度は古代にかわって原始から出題された。昨年度出題された戦後からの出題はみられなかった。分野では、社会経済を中心に出题され、文化からの出題はなかった。設問形式は、歴史事象の特徴を問う問題が2題(I・II)、歴史事象の背景・内容・結果を問う問題が1題(III)、歴史事象の変遷を問う問題が1題(IV)という構成になった。

新課程を踏まえた出題

(II)では、現行課程の教科書で多く扱われるようになった領域型荘園について出題された。

その他トピックス

(I)は、2025年度河合塾テキスト基礎シリーズ『日本史 演習編』第1章演習問題1が類似のテーマを扱った。

(II)は、2025年度河合塾テキスト基礎シリーズ『日本史 演習編』第3章基本問題15がズバリ的中(別解)。

(III)は、2025年度河合塾テキスト基礎シリーズ『日本史 演習編』第7章基本問題3・4がズバリ的中。

(IV)は、2025年度河合塾テキスト完成シリーズ『日本史 演習編』第10章基本問題6・8が類似のテーマを扱った。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
(I)	論述形式 (200字程度)	原始 社会経済	弥生文化における生業や技術の特徴 弥生文化が水稻農耕と金属器の使用を特徴とする食料生産段階である点を軸に、縄文文化や続縄文文化・貝塚文化が食料採集段階であることと対比しつつ、まとめていくこと。 なお、技術の特徴として、弥生土器の製作や大陸から伝来した機織り技術を指摘してもよい。	標準
(II)	論述形式 (200字程度)	中世 社会経済	院政期における荘園の成立と支配のあり方 院政期に成立した領域型荘園について、院・摂関家などが立荘を主導した点や、耕地だけでなく集落や山野河海を含む領域的支配であった点を中心に指摘すること。 なお、院政期に成立した荘園として寄進地系荘園を説明してもよい。	やや難
(III)	論述形式 (200字程度)	近世 政治・社会経済	元禄期の貨幣改鑄政策とその背景・結果 金銀含有量を下げた元禄金銀への改鑄により差額で生じる利益の獲得を図ったことを中心にまとめ、背景と結果との関係性を明確にすること。	標準

(IV)	論述形式 (200字程度)	近代 外交	不平等条約の締結と条約改正交渉 設問文第1・2文から、「カピチュレーション」がヨーロッパ諸国が有した貿易上の特権であることを読み取った上で、「類似の関係」は、江戸幕府と欧米諸国の間で締結された不平等条約によるものであると判断したい。	標準
------	------------------	----------	---	----

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ①大阪大学の論述対策の基本は、歴史事象が生起する要因・背景やその影響・意義など、論述の基本知識を丁寧におさえていく日常の学習にある。教科書を熟読し、単なる用語の暗記ではなく、理解に重点を置いた学習を心がけること。
- ②時代では、古代・中世・近世・近代の各時代から1題ずつ出題されるのが基本なので、それを念頭に学習を行うこと。ただし、原始・戦後についても一定の準備は怠らないこと。分野では、政治を軸に社会経済・外交・文化など他分野との関連を踏まえた学習に配慮すること。
- ③論述答案の作成力は一朝一夕には上達しない。設問文に込められた出題者の意図の読み取り方や答案作成の手法を身につけることが肝要である。論述の学習方針を早期に立てて市販の問題集や過去の問題を解き、できる限り添削指導を受けて自身の答案作成能力を点検すること。
- ④大阪大学では、近年過去の出題テーマと類似した内容の出題がみられる。過去の問題で扱われたテーマについてはしっかり学習しておきたい。